

つくばエクスプレス沿線整備と新川耕地・周辺特別委員会  
行政視察報告書

2016. 11. 4 小田桐たかし

■日程：16. 10. 31

■視察項目：市内流山おおたかの森駅北口市有地及び新市街地地区の整備状況等について

■所感

今回の視察の大きな目的は、①流山おおたかの森駅周辺のまちづくり（新市街地地区特定土地地区画整理事業。施行者：UR都市機構、270畝）について、H28年度末の工事完成予定の進捗状況の共有化を図り、早期完成を要望すること。②駅周辺センター地区内に残るUR保有地の活用について、商業業務・文化機能の誘致を要望すること。③市有地活用策について、まちづくり全体からどのような役割が期待されているのか。を施行者であるURとの意見交換や現場視察で調査することにある。

工事完成については、地区の外周部をはじめ、都市軸道路、西口ロータリーの念邨松敏声が厳しい状況うかがえ、施行者側も完成を明言できない状況だった。これまでの経験からも2年程度見据えたほうがいいと思われた。ただし、工事完成について、途中で放棄する方向ではないことは確認した。

UR保有地については、現時点で明確な業種の誘致が定まっていないこと、土地の高額販売を否定できず、マンション系になってしまいかねない事態うかがえたことが分かった。だからこそ、議会で要望したことは的を得ていたと思われた。

市有地については、街の賑わい創出につながることを期待されていることがうかがえた。施行者とする、現計画内容への不満は聞かれなかった。